

1. 件名

着床式洋上ウィンドファーム開発支援事業（洋上風況マップ改定に向けた基礎調査）

2. 目的

2019 年 4 月の「海洋再生可能エネルギー発電設備の整備に係る海域の利用の促進に関する法律（再エネ海域利用法）」の施行を契機に洋上風力発電の導入の機運が高まっている。その中で洋上ウィンドファームの事業計画の検討において、そのリスクを低減させるためには、精度の高い風況データを収集・公表することは重要である。

これまで NEDO では、洋上風力発電の導入拡大に資する支援ツールとして「Neo Wins（洋上風況マップ）（以下、Neo Wins）」を 2017 年 3 月に作成・公開（2018 年 3 月に社会環境情報を追加）しているところであるが、より信頼性の高い風況情報等の提供ニーズは非常に高く、Neo Wins の改訂が求められている。

本調査では、実海域において洋上風力設備の設置に係る基本設計に必要な自然的条件のデータを収集し、その結果を Neo Wins の改定に活用することを目的とする。

3. 内容

上記の目的を達成するため、以下の項目について実施する。

（1）実海域調査

NEDO が指示する海域条件、調査の詳細仕様等に従って、洋上風力発電設備を設置するために必要な海域調査を、実海域において実施する。調査を行う実海域は、北海道の沿岸、東北地域の沿岸、九州地域の沿岸など国内 5 か所程度を想定している。なお、調査を行う実海域は、有識者の意見等を踏まえ、NEDO で検討の上決定する。また、調査結果のとりまとめに際しては、必要に応じて、他の NEDO 事業等と連携しながら行う。

【海域調査の詳細仕様】

別紙を参照。

（2）検討委員会の設置

調査中に有識者の意見を聴くための検討委員会を設置する。委員会は年間 4 回程度開催し、実海域調査の効率的な調査方法等に関する知見を得るとともに、得られた調査結果等について助言を得る。

(3) 成果のとりまとめ

上述 (1) (2) の成果について、報告書にまとめる。

(4) その他

とりまとめた情報は、NEDO ホームページで公開することとする。

4. 調査期間

NEDO が指定する日 (2020 年度) から 2023 年 2 月 28 日まで

5. 予算額

3 年間で総額 8 億円以内。2020 年度は総額 2 億円以内とする。

契約額は審査の結果及び国の予算の変更等により提案額から減額して契約することがある。また、予算の状況によっては追加公募を実施する場合がある。

6. 報告書等

毎年度終了時には、中間年報の電子ファイル (PDF ファイル形式) を、最終年度終了時には成果報告書の電子ファイル (PDF ファイル形式) を CD-R 等の不揮発性媒体に記録し、1 枚を所定の期日までに提出すること。

提出方法: 「成果報告書・中間年報の電子ファイル提出の手引き」に従って提出のこと。

<http://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

中間報告: 調査期間中に、NEDO が求める内容について報告を行う。また、毎年度末に中間報告書を提出すること。

7. 報告会等の開催

委託期間中又は委託期間終了後に、成果報告会における報告を依頼することがある。

以上

海域調査の詳細仕様について

1. 気象観測調査（風況）

（1）調査項目

- 10 分間平均風速・平均風向
- 年平均風速
- 風速分布・風向分布
- 乱流強度
- 極値風速

（2）調査方法

- 実測は最新の技術による方法を用いて、沖合 2km 程度のデータを 1 年間調査する。
例：風況観測マスト、スキャニングライダー、フローティングライダー等
- 実測は 10 分間平均データの積み上げとし、連続 12 か月で観測されたものとする。
- 極値風速等、調査項目によっては文献調査等も合わせて実施する。

（3）調査結果のとりまとめ

調査結果は、次のようにとりまとめ、報告する。

- 実測データは、四半期毎にとりまとめを行うとともに、最終的に 1 年間のデータをと
りまとめる。
- 上述でとりまとめた実測データ、文献調査結果等に基づき、検討委員会の知見を踏ま
え、風況シミュレーションを実施し、各調査項目をとりまとめる。

以上